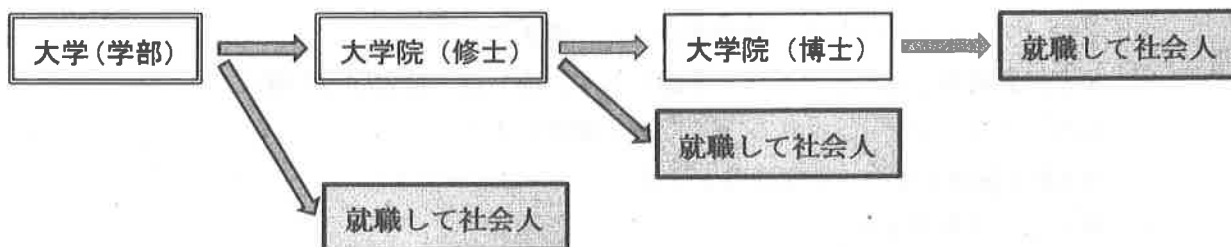


----- * ----- * ----- * ----- * -----

1. はじめに

2. 就職を考える前に「進路」を考えましょう



- ・ 大学院（修士）に進み修了して社会人になることのメリット
 - 大学院（修士）2年間での様々な経験の上乗せ（研究の深まり、学会発表、社会活動、海外経験、TA や研究室での後輩の指導 等々）によって醸成される「実力」と「自信」
 - 学部卒ではターゲットに入らなかった就職先・職種の拡がり
- ・ 大学院（修士）に進み修了して社会人になることのデメリット
 - 短期的に見れば、経済的な負担増
 - 大学院での研究内容にこだわり過ぎて、就職先・職種が狭まることも
- ・ メリット >> デメリット
- ・ 大学院（修士）、大学院（博士）に進学しても、必ずその先には就職して社会人になるという道が待ち受けていることの認識

3. 社会に出るために（社会人になるために）大学時代にやるべき（できる）準備とは何か？

① 授業を通して

- ・ 知識や技術を身につける。
- ・ 講義をただ聞いているだけではなく、考えながら聞く。疑問点や関連して知りたいことを自ら調べる（予復習、能動的な学習）。 →知的好奇心、問題発見・解決力
- ・ 授業の中で発表機会を得たら、何をどのように相手に伝えるかをよく考えて準備する。 →プレゼンテーション力
- ・ グループ学習では、相手の話をよく聞き、自分の考えを的確に伝え、時にはリーダーシップを発揮してグループをまとめていく。 →コミュニケーション力、マネジメント力
- ・ キャリア科目やインターンシップを通じて、社会の仕組み、先輩の活躍ぶりを知る。
- ・ ハイブリッド留学、語学研修などで、海外を経験する。

② 課外活動などを通して

- ・ 学年・学科を超えたつながり。 →コミュニケーション力、マネジメント力、生涯の友
- ・ 活動の中でのOB や企業とのつながり。 →コミュニケーション力、プレゼンテーション力

- ・ 学生時代に勉強以外に打ち込めることがあることの重要性。

③ 日常生活・家庭生活などを通して

- ・ 身だしなみや立ち居振る舞いを身につける。
- ・ 社会で何が起きているのかを知る。新聞を読む。
- ・ 社会の常識を知る。

→家庭における日常生活の中でのご指導はとても重要。服装、言葉遣い、マナーなど。

④ もちろん、就職用に特化した準備も必要です。

- ・ 自身が興味のある仕事・職種は何か、自身は何に向いているかを把握する。
- ・ 書類（エントリーシート、履歴書など）の書き方を学ぶ。
- ・ 筆記試験対策として、テキストを購入して、繰り返し練習問題を解く。
- ・ 面接、グループディスカッションなどの練習をする。
- ・ WEB や説明会などで企業研究をする。
- ・ 身だしなみを整える。

→アルバイトをする時間が少なくなり、収入が減り出費が増加。ご家庭のサポートが必要。

4. おわりに

- しっかり準備すれば、必ず就職することができます。
- 親として自分の価値観を押し付けるのではなく、あたたかく見守ってあげてください。
- 人生の先輩として、ご自身の体験を話してあげてください。
- 学生が自信を持って就職活動に臨み、社会に出て自立していくことを後押ししてください。
- 大学院で経験を重ねることで生まれる新たな可能性もあります。学部卒で就職するほかに、大学院進学という選択肢も含めて、進路をご検討下さい。

お時間があれば、読んでみてはいかがでしょうか？

宮台真司（首都大学東京前就職支援委員会委員長）著（2011.10）

「**宮台教授の就活原論**」 太田出版 ISBN978-4-7783-1277-0（1200円＋税）

山本佳世子（日刊工業新聞社論説委員）著（2014.10）

「**理系のための就活ガイド**」 丸善出版 ISBN978-4-621-08858-6（1200円＋税）